

第6回 総合計画審議会 会議録

1 会議名

第6回 総合計画審議会

2 開催日時・場所

日時 2025年11月25日（火）午後2時30分から午後3時30分

場所 須坂市役所東庁舎第四委員会室

3 出席者

（1） 委員

遠藤 守信 会長、遠藤 守 委員（オンライン）竹内 敬昌 委員、塩崎 貞夫 委員、
春原 博 委員、高橋 洋子 委員、古川 茂紀 委員、星名 実紀 委員

（欠席）西澤 賢 委員、土本 俊和 委員、小池 奈津 委員、酒井 志恵子 委員、
神林 利彦 委員、永田 繁江 委員、児玉 慎一郎 委員、宮島 麻悠子 委員

（2） 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民環境部長、社会共創部長、産業振興部長、
まちづくり推進部長、水道局長、消防長、議会事務局長

（欠席）教育次長

（3） 事務局

政策推進課長、政策推進課政策秘書係長、政策推進課政策秘書係担当係長

4 協議状況（会議事項）

（1） 開会

（2） 副市長あいさつ

副市長

委員の皆様には、本日もお忙しい中、ご参集いただき大変感謝申し上げます。

本日はこれまで審議をいただいた内容を踏まえて作成した計画案の最終確認をしていただくとともに、審議会としての最終的な答申についてご検討いただく予定になっております。

今後のスケジュールにつきましては、本日のご審議を踏まえて確認していただいた計画を本審議会の答申として、12月下旬に市長あてに提出いただく流れとなっております。

皆様にお集まりいただくのは今回が最後になると思いますので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

（3） 後期基本計画（案）及び総合戦略（案）の確認について

会長

皆様、ご出席いただきありがとうございます。

まず、後期基本計画（案）及び総合戦略の確認につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

政策推進課担当係長

それでは後期基本計画及び総合戦略案の確認についてご説明いたします。

資料1の総合計画後期基本計画案をご覧ください。

こちらにつきましては前回第5回審議会におきましてパブリックコメント等を踏まえて修正をしたものから、第5回の審議会の中でご意見等があった部分を、少し修正して作成したのになります。

大きく修正したか所は3か所ありますので、そちらについて説明をさせていただきます。まず資料の36ページをご覧ください。

36ページ、特色ある教育の推進の2ページ目になりますが、下から3段目、新しい学校づくりの部分を修正しております。

こちらにつきましては、もともとは「新しい時代の学びを実現する新しい学校づくりの推進」というような文言としておりましたが、「多様な価値観を持った多様な他者と協働する力や、学んだ知識を使って未来を創造する力を育む新しい学校づくりの推進」と、いう文言に修正しております。

こちらにつきましては前回の審議会におきまして会長を含め、委員の皆様からご意見をいただいた中で、今後の教育の中では、創造力（クリエイティビティ）や社会技能（ソーシャルスキル）というものを育成することが重要ではないかというお話をいただきましたので、直接、創造力や社会技能という言葉ではございませんが、そういった内容を踏まえた形で、追加したものになります。

続いて、80ページを御覧ください。

80ページの施策の取組方針の部分の四つ目、デュアルシステムの説明をしておりますが、その中で大学生をはじめとする若年層というような文言を追加しております。

こちらも前回、委員からこちら出身の大学生が戻ってきてもらうことが非常に重要というご発言がありまして、もともとそういったことを想定して取組方針に記載していましたが、より明確になるよう、「大学生」や「大学新卒者」といった形で、「大学」という文言を追加しております。

最後、3点目85ページになります。

85ページ中ほど、既存観光資源の連携と活用の上から四つ目、各種ウォーキングイベント等を通じた地域の魅力発信等の部分に、「地域資源である健康、文化、自然、農業や食体験等を活かした」各種ウォーキングイベント等という形で追記をさせていただいております。

こちらにつきましても前回の審議会において、環境教育の話題の中で自然体験や森の活用の推進をどこかに入れられたらというようなご発言ございましたので、そういったものを踏まえてこちらに追加させていただきました。

以上3か所が大きく修正した箇所になります。この他、一部字句等の修正をさせていただいている部分がありますが、大きくは変わっておりませんので、ご確認いただければと思います。

続きまして、資料2、資料3になります。

こちらにつきましても前回審議会の中で、総合戦略と人口ビジョンは基本的には別物なので、これまで一緒につくっていましたが、しっかり分けたほうがいいのではないかというご意見をいただきましたので、資料をそれぞれ分けさせていただきました。中身は大きく変わっていませんが、それぞれ「第3期須坂市人口ビジョン」、「第3期須坂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」ということで二つに分割をさせていただいております。

第3期というのは、今の第六次須坂市総合計画で作成している総合戦略は第2期、それ以前が第1期ということで、今回新し作成するものが3期という整理で「第3期」とさせていただきます。

前回から修正した主な部分につきましては以上になります。

会長

それではただいまの後期基本計画（案）及び総合戦略（案）の確認について、ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

委員

案の確認ということで、85 ページのプロセス指標の観光地利用人数に関して前々からこの数字がどういう試算に基づいて出ているかということのを所管のほうにも質問していたのですが、72 万人とか 80 万人という数字が大き過ぎるのではないかと思います。

10 年計画の後半の 5 年ということで、5 年前から、恐らくこの数字に近い数字でやられたと思うのですが、本来、取組内容と連鎖する形でプロセス指標があるべきだと思うのですが、実際のこの観光地利用者数のデータは臥竜公園が中心になっていて、それ以外に峰の原高原や蔵のまちなどもあるのですが、あと二つは大きな旅館の数字を使っている、それちょっと違うのではないかと思います。

また、臥竜公園に関しまして、観光協会でも桜まつり等々でももちろん誘客をしているのですが、動物園も含めて市民のための公園という役割もあって、観光客というよりは市民の利用者も相当入っている中で、約 73 万人のうちの 60% 近い数字が、臥竜公園の利用者になっています。

それを観光地利用数という形で、考えるのはどうなのかなと思っているのですが、これが過去 5 年間ずっとこの形でできているので、今さらだとは思いますが、下方修正してしかるべきかと思います。

産業振興部長

ご指摘のとおり、臥竜公園につきましては主に動物園の入園者を基本しており、地元の方や観光客でない方も含んだ数字になっております。

この計画の中でも同様の定点で観測した数字を利用していますので、今後、こういった方法がいいか、今回の計画では 10 年間のうちの後半 5 年間ですので、その以降で検討させていただきたいと思っております。

会長

今までとってきた統計数値で、これはこれで大変貴重なデータになりますので、これをベースに、インバウンドを増強するとか、そういう方向性もどこかにうたっていたらいいと思います。

たまたま昨日、臥竜公園行ってみましたら、外国人観光客が茶店に列づくってまして、中国語が飛び交ってました。そういった意味では結構、インバウンドのお客さんも、臥竜公園や動物園が呼び水になって来ている。

市内の蔵の町並みが重伝建に指定され、須坂市のインバウンド人気はこれから爆発的に増えていくような気がします。

そうした時に委員のご指摘も踏まえて、市民の憩いの場である、そういった地域資源を有効活用しつつ、インバウンドの増強を図っていくような思いがちょっと入れればいいのではないかと思います。

会長

創造力（クリエイティビティ）とか社会技能（ソーシャルスキル）という概念が、これから非常に重要になってきますので、先見的なコンセプトをここに盛り込んでいただいたことは、非常によかったと思います。

また、須坂のこの総合計画の中に、未来志向の概念が幾つかの委員がおっしゃっていたような形で入れていただいたのは非常にいいと思います。

それから、大学生が戻ってこないというのは非常に問題でして、この須坂に、地域で育てた未来志向の優秀なお子さんが大学を出て、また地域へ戻ってくるという循環をしっかりとつくっていかないと、教育にお金ばかり使って、人材を育ててみんな外へ出てしまうと、未来志向では少し問題になってきますので、ぜひそういう回転、人の流れをつくり出すという施策がはっきりと計画の中に戦略的に打ち出されたということは、非常に強みだと思います。

遠藤会長

それでは次の答申案について事務局から説明をお願いいたします。

(4) 答申(案)のについて

政策推進課担当係長

資料4をご覧ください。

先ほどご確認いただきました総合計画と総合戦略に加えまして、答申書という形で、こちらの文書をつけて最終的に答申できればと考えております。

この内容について確認をさせていただければと思いますので、一旦、文書をそのまま読ませていただきます。

「2025年、2月7日付け、2024世第509号で諮問のあった、第6次須坂市総合計画後期基本計画について市民視点及び専門的見地から審議において慎重な審議をした結果、別冊のとおり答申いたします。なお、計画の推進にあたっては、社会と経済の動向を踏まえ、時代の変化に柔軟に対応しながらこの後期基本計画に掲げた39施策の取組を着実に実施することを求めます。また、市民企業、活動団体、行政が一体となって取組み、将来にわたって市民が希望と誇りを持ち、活力あるまちが実現されることを望みます。」

ということで、こちらに別冊として先ほどご説明しました後期基本計画と総合戦略。人口ビジョンをつけて提出する形となります。この内容につきましてご意見等あればお伺いできればと思います。

会長

最近、ステークホルダー(利害関係者)という言葉をよく使うのですが、例えば須坂にお仕事で通ってきている方や、須坂に住んでいる方のご家族の方がたまに来て、須坂はいい町だねということを聞くことがよくあります。

そういう意味では、須坂に住んでいる人だけでなく、そういう出入りする人たちや通学している学生なども含めて、この答申の中で未来志向の気持ちになることは大事だと思うので、市民・企業・活動団体・行政、全てのステークホルダー、全ての関係者が一体となって取組むというような文言を加えてはどうでしょうか。

政策推進課長

今、会長がお話いただいた、本文の下から2行目の部分について、市民・企業・活動団体・行政など、全てのステークホルダー(利害関係者)が一体となってという表現に修正させていただいてもよろしいでしょうか。

会長

昼間、須坂の企業で働いている方や定期的に須坂に留まる方にも優しいというまちの姿勢を、この中にコンセプト、基本理念として入っているという発信がものすごく大事で、それがこの根底にとうとうと流れているのだという意思表示をちゃんとしておいたほうがいいと思います。

今、実はこんな問題が起きていまして、こういう答申書やテレビなども含めて、多くがAIで作られ、目に見えないところで、そういうものを日頃、私たちが接していると、いつの間にか心の中にそういうAI的なコンセプトが自然と染み込んでしまい、それが日常の私たちの考え方や行動に出てきてしまう。

そういう環境で育っている今のお子さんたちが大きくなったときに、無意識のうちに機械のコンセプトみたいなものが心の底流に流れる時代が、そう遠からず来てしまうことが今、非常に危惧されています。

逆にこういった答申書に流れている一つの哲学的なコンセプトがちゃんとあって、その上に立派な答申書が出来るので、委員の皆さんの意向反映というのは非常に大事で、何を読ん

でもそういうところに落ち込んでいきます。

ぜひ、そういうものがこの中には入っているという、そういう無言の発信も大事ですので、ぜひ、いい文言があったらそれを使っていただきたいと思います。

政策推進課長

例えば、「市民、企業、活動団体など、須坂に関わる全ての方々と行政が一体となって取り組み、将来にわたって～」という形でいかがでしょうか。

委員

今おっしゃられたように、「須坂」という単語を入れたほうがいいように思いました。

委員

この答申がとても何か、暖かい感じになってよかったと思います。

会長

須坂で皆さんが外から来られる方に対して優しく、温かく迎えるまちの雰囲気というのはとても大事なので、そういうものが計画の中に、とうとうと流れているという意思表示でいいと思います。

会長

最後に、その他で事務局から何かございますか。

政策推進課長

2点お願いします。1点目は本日の会議録については、欠席されている委員も含めた全委員に送付いたします。ご覧いただき、お気づきの点がございましたら事務局までお知らせいただければと思います。

次に2点目、今後のスケジュールについてですが、本日、委員の皆様からいただいたご意見等を参考にさせていただき、後期基本計画及び総合戦略の答申書を作成いたします。

12月16日の市議会全員協議会において、パブリックコメント以降の後期基本計画及び総合戦略の変更点などを説明し、12月末に遠藤会長から三木市長へ答申をいただく予定です。

その後、3月下旬に後期基本計画及び総合戦略の製本をし、広報須坂4月号で概要を市民の皆さんにお知らせする予定ですのでよろしくお願いいたします。

会長

ただいまのご説明について何かございますか。

委員

特に意見というわけではありませんが、私たちの団体でも、10月に市へ子育てしている立場としての要望を出し、回答もいただきましたが、回答いただいた中で、例えばこの後期基本計画案の44ページ、体育施設の利用について、イベントを増やすようなことが書いてあるのですが、私たちの要望としては、イベントよりも体育館の無料開放などを要望しており、その要望に対して実現が難しいような回答もありましたが、保育園アプリを利用して私たちが知りたい情報を流すとか、費用がかからないことについては検討いただけるという話もありましたので、ふるさと納税の問題で財政的に厳しい面はあるかと思いますが、予算があまりかからなくて実現可能なことは、今後毎年計画の中で取り入れていただいて、須坂市の財政にとっても市民にとっても無理のない計画が進められていけば、子育てしている立場としてはありがたいと思っています。

政策推進課長

ご意見ありがとうございます。

本日、教育次長がいませんので、ご意見というか思いを、しっかりと教育次長に伝えさせていただきます。

会長

委員の皆様、何か全体通してご意見・感想などございますか。

委員

この審議会につきましては、途中から参加しましたので、全体を把握することが大変でしたが、須坂市に住む人たちが本当に希望を持って行動する、住むことができるようなチャレンジプランということでこの中に組み込んでやっていただければありがたいと思います。

また、先ほど会長がおっしゃった、「須坂に関わる全ての人」という新しい文言を入れていただくということは非常にいいことだと感じました。

委員

あくまでも感想ですが、国の推計では50年後には人口が半減してしまうというような予測の中で、須坂市の人口ビジョンにおいて推定しているような、人口ラインに行けるように、こういった計画がぜひ実行されていくように願っております。

委員

この審議会の諮問を受けたのが、今年の2月、イオンモールもアークランズ（ホームセンタームサシ）もまだオープンしていない状況でした。

それが今、イオンモール須坂がグランドオープンして、5万人弱の町に6万人の方が訪れるというまちに変わってきました。その中にはもちろん市民の方もいますが、近隣の経済団体や自治体からは「須坂はいいな」とうらやましがられているところです。

須坂の市民もあらゆる面でトレンドといいますか、おしゃれになってきているような気がしていて、今まではもちろんスターバックスなんてなかったので、考えも及ばなかったのですが、若い人たちがスタバのコップ持って歩いているようなまちに、大きく変わってきました。これがおしゃれかどうかは分かりませんが。

これまでとは違った大きな変化があるのに、今までと同じことをしていても、衰退していくだけですので、イオンモールという集客力も借りながら、この答申にもあったように「柔軟に」大きく変わっていかなければならないのだろうと思っています。

これから10年20年はイオンモールが須坂を引っ張ってくれる。そのときに、取り残されないように、私どもも、あるいは企業も、それから行政も、一緒に変わっていかなければいけないのではないかと思います。

そういったチャレンジしていくような、市民、企業、行政であるよう願っています。

会長

やはり後ろ向き話もありますが、今、委員のご指摘のように、新しい施設ができ、何となく市民に元気というか誇りというか、何か豊かさを感じるような、そういう風が吹き出した部分があります。

そういった視点からすると、須坂みらいチャレンジ2030は非常に未来志向でつくり上げた部分もありますので、もちろん、イオンモールも須坂市民が一生懸命日々、積み上げてきた成果がたまたま今日になって実現したという見方も出来ますので、我々は未来に対してしっかりと責任のとれるような、そういう勇気を持ちつつ、しっかり須坂市を盛り立てていく責任もあると思います。

そういうコンセプトが、少なくともこの答申書には入ったように、ある意味で画竜点睛を

欠くという、目玉が入ってなかったような部分もちゃんと皆さんに、目玉も入れていただきましたので、立派なみらいチャレンジ 2030 になったと思います。

委員

前期基本計画にも関わらせていただいて、今回、後期基本計画ということで、いろいろな話合いの中で、自分自身が今活動している分野で、またそこを広げていきたいなと思っております。

委員

私は今回の計画からなので前期の 5 年間の動きをいま一つ理解していない中で意見を言わせてもらいましたが、この人口推計を見ても 2030 年の人口減少のほとんどが 60 代以下で、65 歳以上の人数はほぼ変わらない状況はやはり楽観視出来ない状況だと感じています。

そんな中で、子供たちの教育環境に対しては、相当に力を入れて、子育て世代以外のもう子育てが終わった人たちも一緒になって、須坂で子育てをするためにどうしたらいいか、あるいはよりよい子育て環境をどう育てていけばいいか、都会の教育環境に負けないくらいの教育環境をしっかりと整えていくことを本気になって考えることは物すごく大事なことはないか思います。

委員

現在、子育てをしている立場としていろいろと発言させていただいたのですが、普段の生活の関わりの中では、ご高齢の方とも関わることも多いのですが、須坂は高齢になっても働いている方も多いですし、高齢者を守っていくという考えよりも、高齢になっても一緒に育てていくようなまちになっていければいいのではないかと思います。

委員

先ほどお示しいたきましたとおり、人口ビジョンと戦略を分離していただきありがとうございます。

いろいろな団体の事例を拝見していますと、総合計画に合わせて総合戦略の会議を設置され、毎年市民の代表の方々が集まってという運用も一つではあると思いますが、従来どおり、毎年、事業の検証と、見直し等々をやってらっしゃったと思うので、今後の 5 年間についても、行政さん主体でやられるのかと思います。

戦略自体をもともと分離していたものを一体化されて、1 期過ごしてみて、やはりもっと柔軟に出来たほうがいいということで、今回分離をしていただいたと思いますので、ある意味手間をおかけすることになるかと思いますが、引き続きお願いしたいと思います。

会長からも、ステークホルダーのお話があったと思います。須坂市を故郷に持つ、市外県外在住者が須坂のまちづくりに少しでも関与できるような、そんな 5 年間になるといいと思っています。

会長

先ほど事務局からご説明いただいたように 12 月 16 日の日に市議会全員協議会においては、パブコメ以降の後期基本計画及び総合戦略の変更点など、事務局のほうでご説明いただいて、ここで承認をされるということでしょうか。

政策推進課長

承認ではなく、基本的に議会にはこういうものが出来ますという報告となります。

ただ、議員の皆さんから、ご意見があった場合、大事な意見であれば、修正も検討しなくてはいけないとは思いますが、場合によっては書面で各委員にお諮りして承認いただくことになろうかと思っています。

会長

その他、委員の皆様から、全体を通した後、ご質問・ご意見ありますでしょうか。
特にないようですので、本日の会議事項以上となります。

政策推進課長

遠藤会長、進行ありがとうございました。冒頭の副市長の挨拶で申し上げましたが、今回が最後の審議会になる予定です。ここで副市長より、委員の皆様に御礼を申し上げます。

副市長

最終回ということで一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

今回も様々なご意見をいただき大変ありがとうございました。

特に子どもに関して高齢者も一緒になって子育てをするまちや、希望を持って働けるようなまちにというようなご意見をいただき、今後、しっかり検証してまいりたいと思っております。

それから、イオンモールを観光地利用者数の調査地点にしてはどうかというご意見につきましては、議会からもそういったご意見がありますが、今回は後期基本計画で、前期基本計画から継続してきているものですので、イオンモールを含めると相当な数字になってしまうことから、これまでの定点での観光客数でお願いしたいと考えております。

それから会長からご発言のありましたステークホルダー、須坂に関わるすべての人が取組むというご意見も確かそのとおりでございますので、答申書の中に盛り込み、そういうまちづくりを進め、しっかりと検証もしてまいりたいと思います。

今年2月に諮問させていただきまして、書面会議を含めて全6回開催しましたが、委員の皆様には大変お忙しいところご出席いただき改めて御礼申し上げます。

また、会議では今後の市政運営の参考となるような様々なご意見をいただき、重ねて御礼申し上げます。

委員の皆様のおかげで、素晴らしい後期基本計画及び総合戦略が出来上がると考えております。

今後は、完成した総合計画・後期基本計画及び第三期総合戦略を指針にし、市民の皆様のご協力をいただきながら、市が目指す将来像の実現を図ってまいります。

最後に、遠藤会長をはじめ委員の皆様には、長きにわたり、大変お世話になりました。深く感謝を申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

(5) 閉会